

平成30年度

群馬県立女子大学

文学部英米文化学科後期日程試験

入学試験問題

小論文

注意事項

- 1 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 この冊子を開くと、問題が左のページに印刷されています。印刷に不鮮明な点があれば、手を挙げて監督者に申し出て下さい。
- 3 解答は、解答用紙の所定の欄に記入下さい。

次の文章を読んで、あなたはどのように考えますか。あなたの考えを600字程度で書きなさい。

いったい、“コミュニケーション”とは何だろうか？

「ロボットと会話する」というが、コミュニケーションが本当に生起しているのかどうか、まずそこから始めなくてはならない。なぜなら、言葉をはじめ、社会でつかわれる記号の「意味」の解釈は、コミュニケーションと不可分だからである。意味解釈が大きく食いちがえば、会話のキャッチボールはできず、コミュニケーションは成立しない。

とりあえずコミュニケーションを、「閉じた心をもつ存在同士が、互いに言葉をお互いにかかわることで共通理解をもとめていく出来事」と定義してみよう。何だかムズカシそうな定義だが、実はそうでもない。

たとえば二人の商人AとBが契約の話をしているとする。「どうです、おたくにとっても、いい話じゃありませんかね」「いやまったく。そちらさんからのお話では、むげにお断りするわけにも行きませんなあ……ただまあ、もう少し景気がよくなるといんですが。ええと、ちょっとトイレどこですか」と言葉を濁してBが席を立ったとしよう。はたしてAは、契約の成立をどのくらい見こめるだろうか。

こういった腹の探り合い、共通理解のための意味解釈の相互交換は、コミュニケーションの典型例である。たえまなく揺れる意味解釈を通じて、推定作業が動的に続けられる。人間の社会的なコミュニケーションの多くはそういうものなのだ。

だから、言葉（記号表現）のあらわす意味（記号内容）は、言葉にぴったり付着した固定的なものではない。むしろ人間社会における多様な言語的なコミュニケーションの繰り返しの通じて、動的に形成されていくものだ。

さらに大切なことがある。人間の言葉は抽象化をおこなう。一つの言葉があらわす意味の幅は、コミュニケーションによって拡大され、多義的・多次的にふくらんでいくのである。たとえば座るためのさまざまな形態の家具は、みな「椅子」と呼ばれる。これは、コンピュータにさまざまな画像を見せて、その共通特徴を抽出する深層学習とは逆の作用である。そればかりか、「彼がねらっているのは社長の椅子だ」というように、比喩的に椅子が「地位」を意味することもある。比喩的にイメージを重ね、ふくらませていく詩的作用が、人間の言語コミュニケーションの最大の特徴に他ならない。